



「造幣さいたま博物館」

校長 田代敏生



特別支援教育作品展にて(プラザノース)

先週は、今冬一番の寒気が日本の上空に流れ込み、北海道では氷点下30度を記録し、西日本では記録的な大雪となりました。暦の上では、今年の小寒は1月5日(木)でこの日から寒の入りとなり、大寒が1月20日(金)、そして立春が2月3日(金)になります。やはり暦とおりの時期が一番寒いようです。保護者、地域の皆様もどうか、風邪などひかずお元気にお過ごしください。明日から、2年生が福島県南会津郡南会津町、旧館岩村にあるさいたま市立館岩少年自然の家に2泊3日の日程で出かけ、

自然の教室(スキー実習)を行います。次の登校日が2月6日(月)となりますので、学校だより2月号を本日お届けします。

さて、「造幣さいたま博物館」をご存知でしょうか。昨年秋、大宮区北袋町に開館しました。先日、コクーンでの買い物帰りに初めて訪ねてみました。ここでは、貨幣の製造工程や歴史を学んだり、また様々な貨幣・勲章等を見たりすることができます。本物の和同開珎や天正小判、文化勲章やオリンピックのメダルの展示もあります。さらに、見学通路からの工場見学(貨幣及び勲章製造工程)も可能です。この「造幣さいたま博物館」以外にも、さいたま市内には、様々な博物館や美術館などの社会教育施設があります。人気の「鉄道博物館」を筆頭に、県立では「埼玉県立近代美術館」、「埼玉県立文書(もんじょ)館」、「埼玉県立歴史と民族の博物館」など。市立では「浦和博物館」、「市立博物館」、「浦和くらしの博物館民家園」、「旧坂東家住宅」、「岩槻郷土資料館」、「岩槻藩遷喬館」などの博物館や史跡、また浦和パインズホテル内にある「うらわ美術館」、日本近代風刺漫画の祖である北沢楽天ゆかりの「市立漫画会館」や世界で初めての公立の盆栽美術館である「大宮盆栽美術館」もあります。さらに、プラネタリウムを備える「さいたま市宇宙劇場」や「青少年宇宙科学館」は、理科の授業でも利用しています。その他、民間では、「東玉・人形の博物館」や「お人形歴史館・東久」、「鈴木酒造・酒蔵資料館」などもあるようです。振り返ってみると、社会科授業を担当していた頃には、機会を見つけては、出来るだけ多くの博物館や美術館、遺跡などを訪ねていました。本物を直接見る、実物に触る、身近な資料を手に入れる、専門家の解説を聴けるなど、多くの魅力がそこにはあります。子どもたちにとっても、大きな学びの場になると思います。少し足を伸ばして、見学されることをお勧めします。そう言えば、さいたまスーパーアリーナにあった「ジョン・レノン・ミュージアム」は、見学することなく閉館となってしまいました。少し残念。

2月は、3年生にとって、3月2日(木)の県公立高校学力検査に向けての大事な準備期間になります。体調管理をしっかり行い、目標の実現を目指して最後の実力アップを図ってください。あと1か月!!



1年陶芸作品・3年水墨画掛軸が並ぶ本館廊下
～学校が美術館～

